同窓会だより

発行所
岐阜県立関高等学校
同窓会会長大塚陣夫
印刷所
ムトウプリント
電話関2－3155

母校新築　着々完成へ

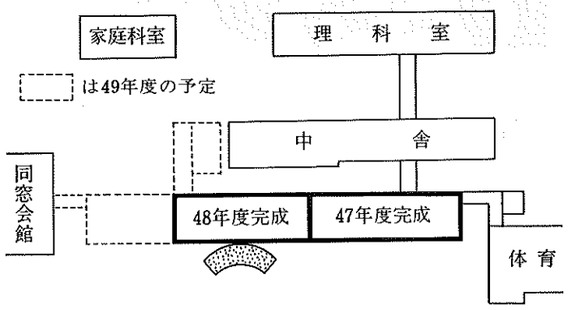
第二期工事

本校の永久建築化の改築工事も第二期を迎え、急ピッチに進められています。初年度の全体計画である四年間で完成の予定は、建築費の急騰と新学区制実施の見合いとの関係上、若干遅れるようですが四十九年度には本館はすべて完了、引きつづき特別教室棟の建築がはじまると思われます。

四十七年度には普通教室九職員室・保健室・印刷室・小会議室三・男女水洗便所三が完成して現在利用中。本年三月には普通教室九・校長室・事務室・放送室・職員便所・男女生徒便所三も完成され、本館の大部分ができ上り、四月からは利用できます。然し本校は二十一学級のため、三学級が中舎の旧校舎に残る状態です。

また四十九年度は、普通教室六・会議室・湯沸場・渡り廊下の一部が計画されています。

建設中は在校生もいろいろ不便もありますが、どんどん現代化される学校によろこびを感じ、職員も生徒も更に本校を発展させようと努力を重ねています。また別途に学校整備の計画もされている様で諸先輩の学んだ旧校舎は一つ一つ消えてゆきますが、桜ケ丘に建つ母校の発展と後輩の成長を、暖かい眼で見守っていただきたいと思います。



新学区制と本校

従来の高校普通科の入学試験は、父兄の居住地によって全県を第一学区と第二学区に分けて実施されてきましたが本年度からは、県内を教育事務所単位の六学区に分けて実施されることになりました。また岐阜市・大垣市は総合選抜を、その他の高校は単独選抜を行うようになりました。単独選抜とは従来と同じで、その高校を志願する生徒のみを対象として、その高校で合否を決定する方法です。従って関高校は美濃学区に属して単独選抜を行うことになります。美濃学区には関市・美濃市・武儀郡・郡上郡がこれに属します。なお本校は地域的に美濃加茂市にも隣接している関係上、次の地域の生徒は調整地域として本校を志願することもできます。美濃加茂市加茂野町（美濃加茂西中の一部）美濃加茂市山之上町野地原、蜂屋町糠洞・野地原、伊深町、三和町、加茂郡富加村（以上双葉中）加茂郡坂祝町。

また美濃学区には、従来からある郡上北高・郡上高・武義高・中濃高・関高の外に、本年度より関市または美濃市に中濃西高（理数科一学級・普通科二学級）が新設されることになりました。中濃西高は四十九年度は桜本町の旧関商工高の校舎に一先づ開校されますが、関高と武義高と中濃西高との関係は微妙なものとなります。中学校の進路指導の面でも仲々難しい問題であり、こと二・三年の間は受験生も、その父兄も戸惑うと思います。

さて、この学区制の実施によって、母校の関高校はどのように変化して行くかと云うことが、大きな関心事になることと思います。従来、関市からは、年々四十名以上の学生が岐阜市内の公立高校普通科に進学していましたが、この生徒達は本年度からは、ごく特別の理由がない限りは、関市にとどまることになります。逆に約五十名程度の美濃加茂市・加茂郡・岐阜市から本校に通学していた生徒は本校を志願できなくなります。

一方、本校の定員は従来と変化なく七学級三一五名です。従って単純に考えると、本校は大きくレベルアップになると思われますが、必ずしもそのように断定することは早計かとも思われます。新設の中濃西高の方にどの程度の学力の生徒が集まるか、また通学の交通の便不便の影響、中学校の先生のアドバイスなどによって、本校の在り方が変ってくると思われます。

然し、過去五十余年間に先輩の築いた伝統と校風には変りはなく、中濃の地の名門校としての存在の意義は大きく当地区の第一の高校としての地位は動かないものと思います。また生徒の質的向上、特に上位の層が厚くなることは事実です。

この新学区制の実施を契機として、明るく希望にもえて入学してくる生徒の一人一人の希望を充分満してやれるように、本年度からは一日も早く生徒の実態を把握して、これに対処していかねばならないと思っています。

大学進学率の質的向上、部活動のより大いなる発展、学園として落ちついた環境づくりなどを目指して、諸先輩の期待にこたえ、関高校は違う又は関高卒業生は違うと誉められるように発展させたいと思っています。（教頭）

短信コーナー

◈ **総会開催**

会則第九条にもとづき、総会を開催いたします。

日時は昭和四十九年五月十二日(日)、詳細は追って連絡いたしますが、会員多数のご出席をお待ち申し上げます。

◈ **会則改正のお知らせ**

昭和四十八年五月十二日に開かれました昭和四十八年度定例幹事会において、会則改正が行なわれましたので、ご報告します。

第十二条が次のように改正されました。

第十二条　通常会員は入会金として金一七〇〇円を出金するものとする。但し入会金は、経常費と積立金とする。

◈ **新名簿作成について**

会則第十条にもとづく新しい同窓会名簿の発行のための準備を現在進めています。

発行予定は昭和四十九年度末をめどとして、昨年末より委員の方々にお願いして改訂作業を進めております。

昭和四十六年発行の現名簿を基礎として、記載事項の点検、変項事項の調査を行なっています。

すでに現在、相当数のご返事をいただいておりますが、住所等、不明の方がかなり出てくるものと考えられますので、会員各位におかれましても、地域、知人等の会員の動向について、役員、委員、または学校の同窓会係へお知らせいただくように、よろしくご協力をお願いいたします。

座談会

同窓会を如何に盛り上げるか！

司会　お集りの方々は、直接同窓会の事務をされている方ばかりですので、今進めていられる仕事のことからお話し願いたい。

A　今、名簿づくりです。昨年の暮れに各代表の方に依頼した返事が、だいぶ集まってきたところです。回によっては連絡が大へんよく出来ていて完璧な内容のものもあれば、卒業以来、殆んど連絡がない回もあるようで、各回によって非常に連絡密度の差があることを感じております。

B　依頼した委員の中には、無責任な人もあり、ひき受けた覚えがないと逆におしかりを受けたり、全然音沙汰がないものもあり、名簿づくりはほんとうにむつかしいですね。

C　でも、今回はいつもになく熱心にやっていただいているようにもみうけられますね。私の家にも三人、娘がいますが、次女だけが問い合わせが来てないだけのようです。

司会　総体的に若い会員が古い層に較べ、熱心さが欠けるということはありませんか。

A　いちがいにそうでもなないと思います。高校でも九回、十三回など女学校に負けないくらい、ほぼ完璧に調べておられました。

C　家の娘の一人は十五回ですが、電話で問い合わせがあったりして、しっかりやっているようですね。

A　そうですね。まだ、目下調べ中という知らせも二・三戴いております。

B　私たちは結局、委員や幹事の方にお願いするより方法がありませんので、どうしても、しっかりやって戴ける回と、そうでないところの差が出てくるようです。中には結婚されて、十年も十五年も過っても、旧姓のまま名簿に載るということがありますね。

司会　名簿づくり一つをとっても、同窓会の運営は大へんむつかしいようですが、その原因やらよい解決策はないでしょうか。

C　私たち関にいるもので自分たちのクラスのものは、深いつながりがありますがタテのつながりは殆んどないのが現状です。せいぜい娘の結婚問題の時に名簿をめくるくらいです。実際にタテのつながりの、必要にせまられないわけです。母校愛がないのかもしれませんが……。

司会　同窓会とは、一体なんでしょう。

C　岐中会なんか、ずいぶんさかんに行われているようですね。兄なんか楽しんで行っているようですが。

D　岐中では同学年とタテの会とがありますね。

B　うちの場合は上の方が女学校というハンディもあるでしょうね。

A　私も正直いって、この学校へ来て、この仕事に携わるまで、同窓会に無関心であったことはいなめない。前後二年ぐらいの間しか同窓生意識はどうしても持てない。そこで考えてみると深川先生もかって言われましたが、高校十回ぐらいまでは家をつぐ人が多かったが、それ以降は地元を離れていくという傾向も一つには考えられることでしょう。それから、もう一つ最近は進学率も増し、高校は大学へのワン・ステップという考えから、母校愛が自然とうすれていくこともあるでしょうね。

司会　関には二つの高校がある訳ですが、その派閥とか競争意識のようなものは見うけられないでしょうか。

E　私はあまり強くは感じませんが、どちらかというと関商工の方が強く結びついているような気がします。やはり普通科の関高と実業校で最終校となる関商工の差があるんではないかな。思うんですが、同窓意識はその年代によって積極的にやろうとする年代と、そう感じない年代とが、どうしても出てくる気がします。

D　Fさん、市役所では同窓生の集まりが出来ているではないですか。

F　まだ出来ていません。前に一度行おうという話しは出てきたんですがね。関商工はあるんです。先を越されて、ちょっと面つにかかわるということで（笑い）…会長の大塚さんとも話したんですが、職場・職場でそういった組織を作っていけば、同窓会の下部組織として盛り上るんじゃないかと話したんです。

D　やっぱり、そういった所で作っていけば拡大して他の職場、たとえば銀行などに拡大していく方法でないと……。東濃高や東実などがっちりくんでるでしょう。

E　東濃高は正月毎年集まってやっているようですよ。

F　年中行事の一つとして、同窓会の集まりをもつといいと思いますね。

司会　それは総会とちがうわけですか。

F　違いますね。総会というと固苦しくなって集まらないでしょう。

岐中なんかも、何も名前なしで集まっているようですね。学校でなくて、長良ホテルなんかでやってるようです。

司会　関高も、こんど五月に総会があるんですが。

B　何か魅力のあるものにしないと……なかなか集まってもらえないですね。

E　卒業したその年の会員はかならず出席しますね。ところが来てみると役員と、わずかな人だけで、総会とは出席しないものだと思って帰っていくようです。（笑い）

D　やっぱり、生活にゆとりが出来て、始めて母校を懐しむとか、思う気持ちは、なかなかでてこないのではないか。（笑い）

B　そういう意味で、上の方が女学校で、ぐんぐん、後輩をひっぱっていくことがないんですね。

C　女学校の私たちが、しっかりせねばならないんですが、正直なところ、クラス会をやって話し合うことで満足してしまいますね。五十周年記念の時も、学校の行事はほったらかして、クラス会のことに夢中になっていたようです。（笑い）その辺がどっか問題ですけど。

E　昨年より、部の表彰の時同窓会の人より激励金を渡してもらっている訳ですがあのかたちで、在校生と同窓会のつながりを持たせ、存在を植えつけることが大切ですね。手紙をことづけるとか、卒業の時に金をしぼり取るだけでは同窓意識は出てこないでしょう。今いい方向に行っていると思いますよ。

司会　関商工がラグビーで全国ベスト4になった時は、大へん熱が上ったようですね。

F　やはり関に卒業生がたくさんいることもあったし、成績もよかったため、たくさん応援に駆け付けたと思います。

D　やっぱり、クラブが強くならなければいけないが、うちでも夏に野球がベスト8になった時は、たくさんの人が来てくれましたよ。県会議員の河村さんや、市の関係の人など……。

F　関商工に較べると、どうしても外に出ている方が多くて、呼びかけが非常にむつかしいですね。

司会　そうすると支部の充実ということが重要になってきますが。

B　十何年前には、東京、関西、名古屋、岐阜、太田と支部の強化を計ったのですが、今は太田を除いて、どうも断ち切れになっている現状です。

D　やっぱり本部の方から、つついて催足しなければ。

A　そうですね、外部の人の方が故郷ということで、より同窓意識を強く持っていられるようですから。

G　支部のまとまりは重要ですね。前に卒業生の大学入学の時、下宿を斡旋してやる、というありがたい電話を戴いたことがあります。

D　支部がまとまれば、地元も盛り上がりますから。

C　地元は職場を中心にね。

K　そうそう、Fさん、やっぱりがんばってもらわないと。（笑い）

司会　話しはつきませんが、予定の時間も過ぎましたのでこの辺で、寒い時に、どうもありがとうございました。

出席者（敬称略）

大沢数雄（教頭）
鈴木照子（高女15回）
奥田正子（高女16回）
篠田和子（高女25回）
浅見真澄（高校3回）
前田　功（高校4回）
岩田竜治（高校10回）
長谷部壮侯（高校11回）
福田邦夫（高校13回）
小野木敬子（高校21回）

編集後記

▼　今年も又、三百二十人の新入会員を迎え、関高同窓会も一万三百三十八人の大世帯となる。大塚会長を中心に名実共に一層の発展を期待したいものである。

▼　「同窓会だより」も、やっと二回目ということで、体裁はお粗末ではあるが、恩師山田学先生の相変らずの御健筆、さらには会員三氏の寄稿は、十分に母校を偲ぶに足れるものと確信する。山田先生、仲田氏、河合氏、足立氏には御多忙にかかわらず、原稿をいただきこの場をかりて、御礼をのべさせていただく。

▼　ささやかな会報ではあるが、これにより関高同窓会発展に、少しでも役立つならば、編集委員としてこの上ない喜びである。

原稿募集
関高同窓会

恩師拝謁

本三冊

山田学先生

学生生活を終えるまでに買った数百冊の書物の中、今に残っているのは、たった三冊しかない。

その一つは「辻村伊助、スウィス日記」である。山の好きな長男が、いつか親父の本棚をのぞいて、「何だ、こんなとこにあったのか。」とぼやいていたので、訳を聞いてみたら、「スウィス日記は今、山の連中がみんな探している。」ということだった。いつの間にやら山岳書の大典になっているらしい。東大農科卒、箱根で高山植物園を育成中、関東の大震災でドイツ人の夫人と二人の男の子もろとも山津波で庄死したこの著者は、山岳写真の名手でもあった。山好きの連中には、たしかに懐しい人の一人であろう。

今、テレビドラマでやっている「放浪記」の作家の林芙美子が、何かご愛読書の一つに挙げていたのも、この本の広さを傍証するもののように思える。

二つ目の。「萩原朔太郎詩集」

豪華本である。総革三万金のこの本は、当時としてもぜいたく過ぎて、必ずしも朔太郎の詩にふさわしいものとは言いかねたが、教授ぶらしていた時に、お目にかかって以来、目先にちらついてどうにも欲しくてたまらない。当時、東京の学生だった西尾病院の院長に頼んで、発行所の長谷川巳之吉に直談判をしてもらった。絶版品切れはどうしようもなかったが、巳之吉さんが三人の子供に残したというその中から、強引に一冊だけもぎとってしまった。これを卒論の種にしてしまったのは、巳之吉の好意に対して、何かすまないような気がしたことを、今でもはっきり覚えている。

三冊目の「抒情英詩集」はお粗末な本である。中学も卒業に近い夏休みのある日、ゴロゴロしていたところへ研究社から特売書目が届いた。売れない書物の後始末というわけである。金一円なり、一円でも中学生にとっては、なかなかの大金だったが、何となしに送金してしまった。

濃紺クロース装、英国コットン紙に印刷されたこの本はそれでもなかなかしゃれていた。以来五十年近いおつき合いになろうなどとは、当時、思いもかけなかったことである。

わが心　高原にあり
わが心　ここにあらず

スコットランドの高原詩人ロバート・バーンズは、わけてもなつかしかった。ここ二十年近く、カメラを通して自然をのぞいている私にとっていつも心のどこかにひびいているのが、この詩の心であるらしい。

昔の日記の片隅に次のような短歌一首がある。

ゆく雲は空はるかなり
行く人も道遙かなりこの
高原（たかはら）

明治以後、百年に渉って日本の人々に歌い継がれてきた「蛍の光」の原詩―といっても全然別のものだが―が、この中にあるのもよいことだ。

昔なじみの忘らるべきや、
心に思ひ起さずに。
昔なじみの忘らるべきや、
また遠き昔のことの。
いざ遠き昔のために、君よ
いざ遠き昔のために、
我等友愛の杯とらん、
いざ遠き昔のために。

当時、山田耕作編の教育レコードと称するものの中に、オックスフォード大学の男女学生の合唱したこの詩があった。金一円、二十五センチSP盤であったが、全く堂々と歌われていて、大切にしていたところ、子供が幼稚園のころに踏み割ってしまって、爾来手に入らない。

先年、母校で五十周年記念が祝われた際、記念誌の編集準備に集まられた昔の人々が話していられることを横で聞いていて、人間というものがこんなに昔をなつかしがるものかと、今更ながら驚いてしまった。

想い出は、それぞれの年に応じて、それぞれに果てしもない如くだった。工場の後が

学び舎だった創立当初のことから安桜山の下の小学校舎を改築して移り住んだ武儀高女時代、現在の関高舎屋と、五十年は決して短い時間ではないので、想い出話も涙と笑いがこんがらがって、他所では決して見せられない顔を、この席では無遠慮にさらして居られた。

一つの学び舎―といっても校舎は三転しているが―頭の中で一つになった同窓というものが回想の中に感じている生き甲斐は、ほかの何物をもってしても代えることのできない宝であるらしい。

我等二人は丘駆け廻り、
雛菊の花を摘み合へり、
されど其より長き年月、
辛き旅路をさまよへり。

辛き旅路は誰も経験している。辛い旅の途中では、お互いに手をさし伸べて心を寄せ合うことの出来る機会が欲しくなるのであろう。

ここに我が手あり、友よ、
ながら手をも差し出せよや。
しかして我等心ゆく親愛の
酒飲み干さん、
いざ遠き昔のために。

昭和四十九年は日本も、いやな年になりそうである。近年、疎外という言葉が流行ったのは、その前ぶれだったのかも知れぬ。いくら手もとのお金が数字だけ増えても、親愛の酒なくしては暮しにくくなるであろう。

しかして汝は汝が大盃をとれ、
我は我の大盃をとらん。
しかして我等友愛の酒飲み
交さん、
いざ遠き昔のために。

（訳　中村為治）

「関高同窓会一・八立入大盃製作提案」はいかに！　呵呵

四十八年度部活動の状況

関高の部活動は先輩達の指導や援助のもとで、各部とも活発に活動をしている。そこで本年度の各部の活動内容の概略と、結果をひろってみました。

○体育系

野球部　部員は少数ながら夏の全国高校野球選手権県予選でベスト8に入る。
バレー部　地区一年生大会女子3位。
水泳部　県大会団体男子4位女子3位。又個人では飯田君が国体出場と活躍する。
柔道部　全国高校総体、東海大会出場。個人戦で特に松井君の健闘が光った。
体操部　地区大会団体2位、個人種目別2位。
テニス部　地区大会女子団体1位、個人1位。
陸上部　地区大会男子総合2位、女子総合3位。
バスケット部　地区一年生大会男女共一位。
卓球部　男子個人戦で間宮君が県大会ベスト8位、県強化選手に指名。
剣道部　全国高校総体女子団体に出場。東海大会女子団体3位。
PTC部　基礎体力づくりのためトレーニングを主とした地味な活動。

○文化系

文芸部　飛騨の女性史を中心とした研究。研修旅行も実施。
コーラス部　朝日コンクール県1位、中部地区大会出場定期慈善音楽会開催。
珠算部　特技の助長と実益を兼ねて週2回活動。
生物部　文化祭発表を中心に活動。飼育培養、実験材料の作成。
グランド印刷部　文化祭発表作品、校内での各種ポスター、暦を作成。
ギター部　文化祭での発表、演奏会実施。
社研部　考古学研究を中心。長野県への研修旅行実施。
美術部　文化祭発表作品の作成と個人の特技の助長。
家庭部　手芸を主として個々の趣味の向上。
写真部　撮影技術の向上と現像焼付け技能の修得。
ユネスコ部　文化祭に英語劇を発表。海外文通実施。
書道部　文化祭での発表作品とペン字検定を受験。
化学部　文化祭での発表を中心に活動。
茶道部　週3回の活動で、薄茶の点前と茶碗、茶杓づくりを行う。
華道部　投入れと盛花（則天門）を中心に練習。
放送部　機械操作の向上と録音テープを作る。
無線部　無線技術を修得し、同志との交信を行う。
天文部　天体観測と研究。
ブラスバンド部　文化祭発表定期演奏会実施、各種発表会出場。
新聞部　発表に関する取材活動と学校新聞の発行。
演劇部　文化祭で発表。少人数で演劇に関する基礎事項のマスターに力を注ぐ。

同窓生寄稿

近頃思うこと

高校二回卒　足立和郎（関小瀬郵便局長）

余寒なお去りやらず、春寒料峭の砌、今年もまた試験地獄、そうして卒業のシーズンがやってきました。

あちらこちらで「蛍の光」を耳にするごとに年輪の重さを感ずる年頃となり、遠くなつかしい新制高校時代の夢路を回顧しながら、少しピントが外れるかも知れないが、私達、新高二回生は現在の校舎と違って、昔まことに狭隘であった旧武儀高等女学校（現本郷町）を利用していた。

その校舎の隅々を想い出しそこに学んだ恩師を慕い、また学友との一挙一動を追憶しながら、あの頃の先生は今頃何処にと安否を気づかい、また同窓生の消息を尋ね浮べ、過ぎ行く年の早さを惜しみつつ、急に寄稿依頼がありましたので、唯つれづれなるままに、近頃特に感ずることの一端を記し、皆さんにこんな同窓生もあるのかと笑い読んでいただければ幸甚と存じ、書くことにしました。

私達、新高第二回卒業生は昭和二十五年三月卒（男女共学第一回生）です。

幸か不幸か、太平洋戦争の末期、戦前戦後と丁度過渡期に奇しくも入学・卒業を味わい、最も歴史的な乱世に高校時代を迎え、まことに物心ともに貧困をきわめた時代に育ち、世の中の急変化に伴って突然意外な六・三・三制（昭和二十四年四月より現行）という学制変革、学区制施行により急遽、関市を中心とした男子は各校より現在の関高校へと転校併入（旧武儀高女校舎）、そうして最上級生として一年間、この学校に学んだ卒業生です。

その多くは旧武義中学校からの男子が数多く、私もその一員でした。

今、こんなこと申し上げる葉に言い表わすことのできないほど、いずれの面にも計り知れない思春期でした。

それが一大事変、終戦と同時に世の中が一変し、前に申したごとく。その様な険悪無法な社会状態の中で、一例を申しますと、一寸と道行く女学生を見ても上級生から目玉に取られるほどの始末、当時は男女間の隔りは相当な次第でした。

それが急に一諸になるということで、唯々唖然としたことでした。この点は今の方々は幸せだと思います。

いざ転校し、最初に女生徒と挨拶を交した時は、それは何んともいえない複雑な念にかられた気持で一杯でしたことを、今なお目の前に昨日のごとく思い出されます。

更に教室での印象は、少し弱そうな机、椅子で、男子は荒っぽいせいか全部こわれ、随分先生から叱られたものです。

先生も生徒も、総てが物心ともに低迷混乱の時代でしたので、いたる処でご迷惑のかけほうだい。どれだけみんなも戸惑いしたことかと、当時の有様が思い出されます。

それだけに今思うとき、先生方のご苦労は一入であったことと推察し、横着者の私どもは申し訳ないことをしたなーと、いま自戒しているところです。

その外、数々の苦楽のエピソードの想い出が、僅かな一年間の内に、どれだけありましたことか、またの機会として……。

何はともあれ、私達二回生ほど男・女を問わず、前述のとおり波らんに溢れた卒業生は前にも後にも以後、長い関高校の歴史の中にも決してあるまいと信ずる。

そうした私達でしたが、いつの間にか卒業後二十四年の歳月が夢の間に過ぎ、そうした想い出は昔物語りとなり、お互いが早や人生の前半を終り、いよいよ後半へと移り変り行く年代となり、「人生四十にして迷わず」の格言のごとくの境遇に入ってまいりました。

今、ふっと静かに思うとき何がこん日ある私達に幸せをもたらしているかと問い正すとき、それは純情な青春をかけた学生時代の尊い教えと、数知れぬ体験の積み重ねが基礎となり、いま有る自分達を築き上げ、日夜世のため人のために尽しゆく目に見えぬ源動力となっていることを、常に自覚し忘れてはならないと思います。

同時に先輩が築いた関高校の真に尊い歴史と格調の高い伝統と風格を汚さぬよう、更に母校のためにも誇りと威厳を保ち、また後輩のためにもこれからも頑張り続けたいと念ずる昨今です。

最後に一番望みたいことは同じ学びの庭に巣立った私ども同窓生は、常に縦横の連帯意識を喚起し、共に上下の差なく手を取り合って、地元関市は勿論のこと各界それぞれの立場に立って地域社会の発展の為に、われわれ自身のおかれているあり方を自分自身にきびしく見つめ資することこそ急務だと、この頃、特にこの年になりひしひしと痛感していることをお伝えして、雑感・愚見をも併せ擱筆といたします。

六十の手習

高女五回卒　仲田くに

生きている
あかしあきらかに
六十二の
歳月を信じ祈り学ばん

「六十の手習」と若い時に聞いて、なんだ年寄ってからと少し馬鹿にしたような気持でしたが、今、六十の坂を越して生きて来た年月を振り返ってみて、何をしたかと悔恨が胸に、こつんと突き上げて来この心境は私にとって何ものにも代えがたい時です。

私どもの仲間には八十余才の方もあります。私は今、六十の手習を始めた幸を思っています。

六十二の生きて来た才月を無駄にしないのは、これからの生き方にあるとわかりました。

若い時からの夢に点字を打つ技を習って〝つれづれ草〟〝源氏物語〟の古典から現代文学など、私の好きな文を点字に打って贈りたいと思っています。でもまだその時がいたらないのを残念に思っています。

この夢も、八十才の先輩をお手本に、私もこれからの人生を祈り学ぶ心で精進したいと願っています。

母校よ！

高女十五回卒　河合澄子

突然に全く思いがけなく、旧いクラスメートからの手紙で、同窓会便りについて、母校、同窓会などの文字に昭和十三年卒業以来三十五年振りのなつかしさを感じました。このふるさとの様な、なつかしさが私達、高女卒の母校への思いなのでしょう。

私も改めて母校について考えてみました。

思えば、わが母校武儀高女はなく、関高校の出生には、恩師中村先生共々同窓会代表として参与し、大いに活躍いたしたこともあり、その高校の華道部を受け持ったこともありました。

しかし、今の様に遠くからみつめておりますと、尚一層ふるさと的存在です。

現在、たまたま私が茶道の教授をいたしておりますので稽古日に社中の皆様に、それぞれの方の母校についてのアンケートをとりましたところいろいろの世代の方達ですが皆様一様に、なつかしさを第一にあげられ、それぞれに母校を誇りに思っておられました。その中のお一人、七十才になられる満洲からの引揚げの方で、御主人を亡くされお子様もなく、たった一人で夜半に気分が悪くなり、淋しさと恐ろしさで老人ホーム入りを考えられる老いの身ですが今、茶道に精進し、豊かな心で過ごせるのは、今はなくなりましたが、満洲で一流高女を出たお蔭と、目を輝やかせて誇っておられました。その生き生きした目をみつめて、私も楽しくなり、本当によい事をした様な、さわやかな気分でした。

私も人に道を教える身、いかにして、この母校の様に誇らしく、なつかしく慕われるふるさと的存在になれますか精進、努力してゆかねばと心に念じました。

わが母校よ、益々大きく成長をと声高く、健在、繁栄を祈ります。